

文芸

短歌

米納三雄 選

花は葉を葉は花知らぬ彼岸花征きて還らぬ父知らぬ吾も

幹ごとに棕の大樹は伐られたり鳥の寄り処のまた一つ消ゆ

ポツポツと石垣ぬらし降る雨の夕べしずかに秋運びくる

さはさはと棚田を抜くる秋風に畦を縁どる彼岸花映ゆ

果てしなく広がる阿蘇の草原の芒揺らして秋風過ぐる

体力も知恵も増しくる三歳児大人を真似て皆を笑わす

畑に来て種蒔きおれば赤あきつ翹光らせて吾が前を過ぐ

のんびりと妻と安らぐ旅の宿忙しく生きし若きなつかし

海の辺の鐘の音聞きて仰ぎみる大江天主堂は秋の陽に映ゆ

秋の夜は何とは無しに心地よく急に歌など作りたくなる

金婚を過ぎて幾とせ幾山河共に白髪の齢となりぬ

山畑の小さなまろぎ茶の花がちりんとしたよな朝霧の中

宮園 坂本 信一
下陳 山田 凡骨
砥川 福馬たづ子

俳句

富永小谷 選

秋涼し里山の風惜みなく

百舌鳥猛る山の湖黙ふかめ

夕星のしるく山湖の秋ふかむ

新聞の折目つめたし今朝の秋

木犀を零し雉鳩くくみ鳴く

ジヨギングの足音迫る穂田明り

飾り馬鳥居くぐり来秋祭

山影の昏む村里栗落つる

訳もなく走り出す児や鴝日和

敬老日一芸なきもつらなりて

目が離せん 孫がチヨロつき手を伸ばす 宮園 西田 流水
 目が離せん 爺危篤に付きつきり 下陳 山田 凡骨
 目が離せん 掬摸を付けとる刑事さん 惣領 小森英美子
 目が離せん アクロバットの飛行隊 惣領 阪口 基明
 目が離せん 徘徊さんに気くたぶれ 田原 野口 鈍輝
 そら面白か 政権替えてみんかいだ 広崎 一丸 寅三
 そら面白か 釣るる穴場にお供しゆう 広崎 宮崎 逸雄
 そら面白か 笑るたら入歯きやははずれ 寺迫 新村 典子
 そら面白か 太郎一郎よか勝負 木山 増岡 酔粋
 そら面白か 真面目つらしてチヨチヨくれば 宮園 岩本よこく

狂句

田上富岳 選

狂句次号の課題 「安あがり」「冬支度」

投稿は役場広報係まで。毎月15日まで必着。
 (数種に投稿される場合は、別にしてください。)



第63回 熊本県民体育祭

9月20、21日、玉名市を主会場に第63回熊本県民体育祭が開催され、益城町より181人の選手が参加し、各競技で熱戦が繰り広げられました。その中でも馬術競技では、中村薫監督(辻の城団地)を擁し、見事優勝を飾りました。なお、上益城郡が総合成績で4位となり、昨年(11位)から大きく躍進しました。おめでとうございます。



見事優勝を飾った馬術競技